

# 特集 輝く仲間たち (第26回)

毎回、市内で頑張る方々に登場していただきます。  
今回は、NPO法人敷島棚田等農耕文化保存協会です。

## 「笑顔できらめく、棚田の未来」<sup>あした</sup>

表紙を飾った、笑顔がはじけるお田植の風景。  
これは、敷島地区にある江戸時代からの貴重な遺産「御領棚田」です。<sup>ごりょう</sup>

江戸時代初期、徳川幕府の直轄地として開田された歴史を持ち、山の斜面の高低差に合わせるように約800枚もの美しい田んぼが重なる、甲斐市が誇る宝物です。しかし一時は、高齢化などにより荒廃の危機に瀕していました。

そんな中、今から27年前、山梨県や旧敷島町(現・甲斐市)の職員が中心となって保存協会を立ち上げ、情熱的な再生活動が始まりました。今では市民ボランティアの協力と、甲斐市からの温かい支援によって見事に復活を遂げ、美しい景観が今に引き継がれています。

## 伝統を支える3つの絆

### 輝く2,000本の光

6月に開催された点灯式では、夜の棚田に約2,000本のLEDライトが幻想的な光のラインを描きました。澄んだ初夏の夜空に鮮やかに打ちあがった花火が水面に美しく反射し、訪れた人々を魅了しました。



### 笑顔あふれるお田植え

初夏の太陽のもとで行われた伝統のお田植えには、市内外から大勢のボランティアや若い学生たちが参加。泥まみれになりながらも笑顔で手を取り合い、甲斐市の大切な農業の営みを未来へと繋いでいます。

### 次世代へつなぐコミュニティ

現在の御領棚田は、ただお米を育てる場所にとどまりません。地元の農家と都市部から訪れる人々、そして次世代を担う子どもたちが温かく響き合い、新たな絆と笑顔を育む地域交流の大きな舞台となっています。



## 「棚田を支える人々」

自然を求め、家族と移住。  
棚田が繋ぐ、かけがえのない絆

神奈川県民の民間企業に20年勤めていた吉田健二さん(43)は、転職をきっかけに、8年前に家族4人で山梨県へ移住して県庁に就職しました。ここで同じ棚田オーナーの兒玉さん一家と知り合い、交流はもう6年になります。「夏の草取りは大変」と苦笑いしつつも、子どもたちはおたまじゃくし捕りに夢中。大自然の中で育まれる温かい関係は、家族と地域の絆を今も優しく紡いでいます。



東海大学付属甲府高等学校  
自然科学部(高橋秀幸先生)

水辺のビオトープ作りなど環境保全に励む中、探究コンペをきっかけに棚田保存会との縁が生まれ、念願の活動参加が実現しました。先日の田植えは、自然の豊かさと農業の大切さを肌で学ぶ最高の機会に。「泥での作業は大変でしたが、地域の美しい景観と生態系をこれからは私たちが責任を持って守り、次世代へ繋いでいきたい」と、地域の未来を担う高校生たちは頼もしい決意を生き生きと語ってくれました。

## 小田切一正会長の思い

地元にとって棚田は手入れが難しく、日々の農作業も本当に大変なものです。それでも、この活動を通して一人でも多くの方に棚田の魅力を知ってほしいと願っています。

いつも支えてくれる会員の皆さんに感謝するとともに、一生懸命に環境保全に励む高校生にとっても、ここの経験が活動をさらに深める機会になれば嬉しいです。イベントを契機に、地元の方々が地域の価値を再認識し、誇りを持って地域が盛り上がっていったらと思っています。おかげさまでこれまでの活動が実を結び、周囲の管理をしてくれる方が増え、県道からの景観も見違えるほど良くなりました。



## 【お問い合わせ・活動への参加】

## ■ 棚田の保存・イベントについて

NPO法人 敷島棚田等農耕文化保存協会

TEL: 090-4715-1409 (または 055-277-6138)

甲斐市議会は今後も「輝く仲間たち」の活動を全力で応援して参ります。